

平成26年3月10日発行

国際村だより

DEWA SHONAI INTERNATIONAL FORUM



寿司をにぎってたべよう



国際村だより もくじ

- P 2 : 新年を祝う会
寿司をにぎってたべよう
- P 3 : 奨学生紹介
日本語教室
- P 4・5 : 特集 アマゾン民族館
- P 6 : せかいの台所～中国・バングラデシュ
講座等募集紹介
- P 7 : コミュニティ通訳の活動
相談窓口より
- P 8 : ボランティア募集お知らせ
賛助会員募集
あとがき



アマゾン民族館

3月30日閉館

3月15日から入館無料

開館時間 9:00～17:00

出羽庄内国際交流財団会報

vol. **62**

Quarterly

H25年度「新年を祝う会」開催



平成25年度の「新年を祝う会」は、1月26日(日)、出羽庄内国際村ホールで開催されました。

一年に一度行っている新年の交流イベントで、日本語教室の学習者、日本語指導ボランティアのみなさんはじめ、外国語講座、楊式太極拳講座を受講されている方々や講師の先生方、ワールドコミュニケーションクラブのメンバーなど、国際村に関わっている方々が約60人集まりました。

参加者の皆さんは、活動場所は同じ国際村でも、時間や曜日が違ったりなかなか頻繁には国際村に来られなかったりと、普段会う機会はあまりなく、この新年を祝う会で一堂に会することができ、よい交流の機会となりました。

食べ物は昨年と同様、参加者全員が自慢の料理などを一品持ち寄りし、また日本語教室ボランティアたちの手作りの豚汁がふるまわれました。料理やデザートなどの種類、量も豊富で、しかもどれも美味しく、参加者は大変満足したようです。

ステージは、4年連続出演のオリエンタルモーター(株)「煉樂人(れんがびど)」のみなさんによるよさこい踊り、2年連続出演の勝福寺地区の「嫁っこクラブ」さんの日本舞踊、日本語教室ボランティアのご家族による楽器演奏、ヒップホップのリズミカルな踊りなど盛りだくさんで、会場も大変盛り上がりしました。

そのほか、毎年人気があるビンゴ大会、ほぼ全員参加の椅子取りゲームなども行われました。来年も「新年を祝う会」を行う予定です。ぜひ家族や友達をお誘いの上、ご参加ください。



たくさんの種類の持ち寄り料理



椅子取りゲーム。本気でいすを取ろうとする参加者



家族でアンサンブル



プロのような日本舞踊



会場を盛り上げたよさこいの踊り



小学生2人の可愛い踊り

寿司をにぎってたべよう！



国際村の日本語教室が企画し、日本語学習者や庄内在住の外国出身者を対象に行っている「寿司をにぎってたべよう！」が、2月2日に行われました。

鶴岡の寿司処「三幸」の店主、川上祐士さんから寿司の握り方を教わり、巻物2種(きゅうり、柴漬け)と握り4種(まぐろ、サーモン、えび、イカ)に挑戦。二年に一度開催している事業で、中には何度も参加している人もいますが、やはり酢飯の量や握り加減が難しく、四苦八苦しながら自分の「握り」を作っていました。巻きずすを使って作るのり巻きも、



ご飯を入れすぎて中身が飛び出ないように慎重にご飯をはかりで量りながら、何とか上手に作る事ができました。



作った後は、自分の「握り」を皆で見比べつつ会食。自分で作った寿司とお店で食べる味を比較してみると、やはり「寿司」は奥が深く、難しいのだと改めて実感させられました。川上さんから寿司を食べる順番、ガリとお茶の意味など、寿司に関するいろいろな話を聞きながら、楽しく日本の食体験を満喫しました。

今回から定員を15名にして実施しましたが、少人数になったお陰でどの参加者も細かく川上さんの指導を受ける事ができました。次回、2年後をお楽しみに。

出羽庄内
国際交流財団

奨学生(奨学金受給者)を紹介します

(公財) 出羽庄内国際交流財団では平成7年から私費留学生に対して奨学金支給事業を行っています。鶴岡市にある大学や高専、高等教育機関に留学生として在住している学生のうち2名に対し、大学院生には月2万円、学部生と高専生には月1万円を支給しています。今年度は山形大学大学院農学研究科1年に在学している李雪(リ セツ)さんと侯瑩(コウ エイ)さんが奨学金を受けています。今回はこのお二人をご紹介します。

山形大学大学院
農学研究科1年リ セツ
李 雪さん

私は李雪と申します。中国吉林省長春市出身です。大学を卒業した後、留学するために日本に参りました。今は山形大学農学部で勉強しています。日本に来たばかりのころはわからないことがたくさんありました。そのたびによく日本人から精神的、経済的に援助していただきました。去年から、いつも中国の友達と一緒に中国語講座に行つて、国際村の活動によく参加しました。その時多くの日本人と知り合いました。これをきっかけに、日本人の性格や文化などを深く理解することができました。私が日本に来てから2年になりました。この2年で日本の文化、飲食など多くのことを体験しました。東京・北海道など有名な都市に行き、日本のいろいろなところの風景を見たことは、私にとって大切な収穫です。日本来たばかりの不安な気持ちは、今は安心に変わりました。日本が好きな気持ちを持ちました。これからは後一年日本に滞在し、私の希望としては、研究を頑張りたいと思います。一方で日本の生活をもっと体験し、楽しみたいと思います。

山形大学大学院
農学研究科1年コウ エイ
侯 瑩さん

私は中国吉林省出身の留学生侯瑩です。平成25年の四月に山形大学を受験し、修士として留学生生活を始めました。私は日本に来てからずっと鶴岡で暮らしています。庄内地区の食はおいしくて、人々は優しく、風景は美しいです。このようなところでの生活は何より気持ちがいいと思います。友人から誘ってもらって、酒田祭、天神祭、花火大会などの庄内地区の地元祭りに行きました。祭りで民族風情に感動を覚えました。地域と主題の違いによって、祭りの特色もそれぞれです。多くの地元美食も食べられて、本当に楽しかったです。祭り大好き人間になりました。それに、今の寒い時期に庄内の温泉が一番いいと思います。露天温泉に入って雪を見ながらリラックスして、最高の時間を過ごしています。とにかく、庄内地区は私にとって第二故郷の存在感を持って、本当に愛しています。ここで、まだ体験していないこともいっぱいあって、これからもいろいろな体験していきたいです。

日本語教室に来てみませんか？

国際村に日本語教室があるのを知っていますか？

「出羽庄内国際村 日本語教室」は、国際村ができた平成6年当初から始まり、今まで約20年間、たくさんのボランティア指導者や日本語を勉強する学習者の皆さんに支えられてきました。

現在、国際村で日本語を学んでいる人は58人、日本語の指導ボランティアは34人です。旧鶴岡市在住の方だけでなく、朝日や櫛引、羽黒や藤島といった地域、また庄内町や酒田市からも通っていただいています。

学校の教室のような形ではなく、レベル別に小さいグループを作ったり、一対一での勉強をしています。来日して間もない方だけではなく、来日10年、20年を過ぎ、もうすっかり庄内の生活に慣れ日常会話に不便を感じない方も、さらに日本語に磨きをかけようと毎週通ってきています。

10歳前後を過ぎてから外国語を学ぶ場合、それが母語と同じように使えるようになるのは大変難しいことだと言われています。外国語を学んだ経験のある人はわか

るかもしれませんが、言葉の学習は難しい反面、いつも新しい文化の発見や、母国の文化を見直すことにもつながります。「なぜ家では家族みんなが息子を『お兄ちゃん』と呼ぶの？自分の“兄”ではないのに。」「『どうも一』と言いながら相手と別れる時は、相手がやめるまで何度も『どうも』を言った方がいい？」「『赤い』『青い』というから、『緑い』や『紫い』ともいう？」などなど、言葉や文化の不思議がたくさん。言葉は知識として知っているだけでなく、自然に使えるようになってこそ役に立ちます。ぜひ一緒に日本語の世界を冒険してみましよう。

日本語を学びたい方はいつでも登録して、教室に入ることができます。また指導ボランティアも募集中です。興味のある方は、ぜひ国際村までお問い合わせください。



日本語教室 ぶどう狩り



20年間ありがとう アマゾン民族館、

平成6年4月24日、出羽庄内国際村のオープン開館以来、アマゾンに住む住民インディアンと人間の共生のあり方、また国際理解皆様のご愛顧に心から感謝を申し上げます。ここで、この20年間のアマゾン民族館を

1994
(平成6年)



元シャーマンの画家パブロ・アマリンゴ氏と文化人類学者ルイス・エドワルド氏による講演会、アマゾン自然絵画学校ウスコアヤールの絵画展、第1回目の子どもフェスティバル等様々な催しが実施され、入館者も3万人達成。クイズ親子でドキドキ公開録画も行われました。

1995
(平成7年)



企画展「タイ山岳少数民族展」、アマゾンミュージックフェスタ（メイナコ族のカマラ・メイナコ氏が踊りを披露）開催。入館者数5万人達成、島村文部大臣が視察に訪れました。

1996
(平成8年)

企画展「アムール河の民シベリア・ナナイ民族展」、ロシア極東美術館の資料を加えた「シベリア・ナナイ民族展PartⅡ」、庄内空港でのアマゾン民族館出張展示等が行われました。

1997
(平成9年)



企画展「中南米楽器展」、庄内空港アマゾン展、やまがた輸入博'97への資料貸出等を行いました。この年、秋篠宮ご夫妻もご来館。

1998
(平成10年)



企画展「ニューギニア民族展」、庄内空港アマゾン展などが行われました。また、アマゾン民族館の民族資料を解説した『総合案内』をこの年発行。

1999
(平成11年)

企画展「神秘のマヤ文明展」、また「神秘のマヤ文明シンポジウム」が開催されました。入館者数10万人達成。

2000
(平成12年)

企画展「ニューカレドニアを中心とした南太平洋展」開催。小学校への出前講座も行われました。

2001
(平成13年)



企画展「北方民族文化展」、鷹匠・松原氏の講演会を開催。夏休み子どもフェスティバルでは、子ども達と山でいろいろな虫や自然を探す探険に出かけました。

うございました！ 3月30日(日)閉館

オープンと同時に開館したアマゾン民族館。
イオ達や各地域の民族資料を通して、
解を発信し続けてきました。
ます。
を振り返ってみたいと思います。



2002
(平成14年)



企画展「世界の民族衣装展」開催。総合学習が開始し、たくさんの小学生が訪れました。
この年、天皇皇后両陛下がご来館。

2003
(平成15年)

企画展「モンゴル草原の生活と文化展」では移動式住居ゲルを展示。モンゴル大使館文化担当官ダワー・ジャルガル氏の講演会を行いました。

2004
(平成16年)

開館10周年特別展「アンデス文明展-インカとその末裔」開催。オープニングセレモニーと秋にはフォルクローレの公演が行われました。



2005
(平成17年)

企画展「南アジア展～インド、バングラデシュを中心として」開催。シタール等を使ったインド古典音楽演奏会が行われました。

2006
(平成18年)

鶴岡・ラフォア友好都市提携10周年記念として、企画展「南太平洋の自然と文化展」、フラダンス公演を開催。

2007
(平成19年)

企画展「多民族国家インドネシア展」開催。インドネシア・パプア州ケーロム郡のワリス伝統舞踊団が勇壮な踊りを披露しました。



2008
(平成20年)



企画展「ブラジルの自然と文化展」開催。ブラジル大使館文化担当官アンドレア・ナシメント氏講演、サンバショーを行いました。

2009
(平成21年)

企画展「世界の民族と文化～アマゾン民族館収蔵展」開催。ユーラシア・オセアニア・アメリカ・アフリカ出身の方々がテープカットに参加、世界を駆け巡る旅人・木村喜代志氏の講演会が行われました。

2010
(平成22年)

NPO法人フー太郎の森基金の新妻香織氏を招き、アフリカでの植林活動について講演会を開催。

2011
(平成23年)

写真家の永武ひかる氏のアマゾン写真展を開催。



2012
(平成24年)

東北初の「生き物文化誌学会」をアマゾンの生き物文化と現代社会をテーマに開催、秋篠宮様と眞子様も御出席されました。



2013
(平成25年)

大阪の国立民族学博物館の企画展「アマゾンの生き物文化」に資料を貸出。写真家の永武ひかる氏のアマゾン写真展・講演会を行いました。



アマゾン民族館入館料

3月15日(土)～3月30日(日)まで無料

この機会にお見逃しなく！【休館日】 毎週月曜日



国際村 せかいの台所

12月中国料理 & 2月バングラデシュ料理報告

今年度最後の料理教室の報告となります。来年度も年に6回開催を予定しておりますので、興味のある方や、何か新しい事にチャレンジしてみたい方などの会員お申し込みをお待ちしております。大変人気のある講座となっておりますのでお早めに！

12月8日(日) 中国料理 ～ 国際交流専門員 楊詠麗の台所 ～

今回のメニューは肉まん、セロリのサラダ、ピータンと豚肉入りのお粥です。肉まんを目当てに参加した方が圧倒的に多く、中には山形市からいらした方もちらほら。大変人気の料理教室となりました。

セロリのサラダとお粥はスピーディーに作ることができましたが、今回のメインは、やはり肉まん作り！生地を捏ね方、発酵の仕方、具の包み方等、皆さんメモをとったり写真に収めたりと熱心に聞いていました。蒸した後、蓋を開けた瞬間ふかふかに仕上がった肉まんを見て歓声と拍手が沸き起こりました。

苦戦した面もありましたが東北の寒い冬には大変嬉しいレシピでした。



2月15日(土) バングラデシュ料理 ～ シャー・モイヌール・ラッハマンさんの台所 ～

今年度最後はバングラデシュ料理で締めくくりました。メニューは牛肉の炊き込みご飯、牛ひき肉のケバブ、お米のプディング、サラダの4品。

ご夫婦で教えてくださったので、参加者ひとりひとりが先生と会話を楽しむ時間が多くあり、賑やかな様子でした。

今回は先生の希望で特別な献立を用意しましたが、やはり手の込んだものばかりで時間をかけて丁寧に仕上げました。特にメインである炊き込みご飯は調理開始から約3時間かけてようやく完成。牛肉のボリュームがあり食べ応え十分でした。

香辛料を使う量の多さに驚いたり、右手を使って食べてみたりと他国の食文化に触れ、違いを楽しむことが出来ました。



春からの新生活、国際村で新しい事、始めませんか？

(各種講座等の詳しい情報は、<http://www.dewakoku.or.jp>をご覧ください。国際村(0235-25-3600)にお問い合わせください。)

各種外国語講座

国際村では、英語、中国語、韓国語の講座を開講します(各3名以上で開講)。それぞれレベルごとにクラスが分かれており、中国語、韓国語の入門コースは4月から1年のコースがスタートしますので、ゼロから始めたい人はこのチャンスをお見逃しなく！どの講座も1回無料で見学できます。また教室型の講座とは別にフリートーク型講座も実施中。こちらも英・中・韓の3言語があります。お茶を飲みながらの自由会話の時間です。ぜひご参加ください。

楊式太極拳講座

太極拳って難しい？ いいえ、そんなことはありません。軽く、柔らかく、円く、というスタイルの動きで、老若男女、誰でも取り組みます。今年度は入門コースとスキルアップコースに分かれて開講しますので、初めての方も、経験者の方もそれぞれ合ったコースを受講できます。健康のためにも太極拳を始めませんか？ 受講料は1年間で、入門コースが43,200円、スキルアップコースが42,300円です。(各4名以上で開講。)

ワールドコミュニケーションクラブ

英語が好きな中高生のみなさん、もっと英語を聞いたり使ったりする機会を増やしませんか？

国際村でメンバーが月に一度集まって、英語圏出身の先生方と一緒に色々な活動をしています。また、海外からの訪問団と交流する機会もあります。入会資格は英語が好きで、中学、高校、高専生であること。年会費は2,000円で、いつでも入会可能です。

せかいの台所会員募集！

今年度も「せかいの台所」年間会員を募集します。この会員になると、年に6回実施される料理を学ぶ講座、「せかいの台所」に参加できる他、国際村の賛助会員にもなりますので、語学講座などの主催事業を割引料金で参加できるなどの特典があります。世界の料理や文化に興味のある方はぜひご参加ください。

会費は10,000円、先着10名様までです。

国際村ボランティア 「コミュニティ通訳」の活動

「コミュニティ通訳」という言葉を聞いたことがありますか？コミュニティ通訳とは、地域社会に住む外国出身者が多くなるにつれ、医療や教育、司法などの様々な公共サービスの場での通訳が必要になってきている社会の中で、それに対応する通訳や翻訳者、またはその活動を指します。商談通訳や会議通訳のような時間や目的、内容がはっきりした通訳と違い、コミュニティ通訳は日常生活と密接に関わっているため、内容は多岐にわたります。いつ、どのような場面で通訳が必要か事前に予想することも難しく、日本国内でもあまり制度化が進んでいません。しかし庄内にも多くの外国出身者が在住し、海外からの訪問者も増える中、様々な面で必要性が高まっています。国際村では2005年より「コミュニティ通訳」の登録と派遣、言語グループごとの自主勉強会を始め、多くの方に参加、活動していただいています。毎月の言語グループごとの勉強会では、医療や教育現場を主に想定し、専門用語などを確認しながらロールプレイでの通訳練習を行っています。

生活上必要とされる通訳・翻訳は、難しい内容だけではありません。地域でのゴミの出し方、小学校への持ち

物、道案内などといった、小さい言葉の支援が大きな助けになる場合もあります。今はあまり自信がないけれど将来は何か言葉での協力をしたいという方、日本に移住して、だいたいの日本語の日常会話はわかるようになった、という外国出身の方々の登録や参加も大歓迎です。

この通訳に登録されている皆さんには、生活面での通訳・翻訳以外にも、海外との商談や来客への同行通訳、チャーター便の歓送迎など、本来の目的を越えた場面でも活躍いただいています。災害時の対応や観光面での研修もしていきたいと考えていますので、興味のある方はぜひお問い合わせください。



毎月の勉強会



チャーター便歓迎

国際村の生活相談窓口

出羽庄内国際村では、外国出身者の言語や習慣の違いから生じる日常生活の問題を解決するため、生活相談窓口を設け、地域に在住している外国出身者や関係者の方々の相談、外国に関する様々な事柄の相談に対応しています。また生活の色々な場面で必要とされる通訳や翻訳の依頼も多く受けています。

平成25年度(12月現在)の相談件数は103件。そのうち、在留資格や外国人の入国、日本滞在に関する相談が最も多く、次いで教育・子育てに関する事、家族・家庭の問題に関する相談が続いています。そのほか医療・福祉、生活環境、労働関係、年金等に関する相談もありました。国際村に依頼のあった通訳・翻訳は48件、内容で一番多かったのは日常生活に関するもので17件、次いで教育・子育て12件、医療9件が上位を占めています。依頼のあった言語は、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ドイツ語の5言語でした。寄せられた相談や通訳・翻訳の内容からみると、外国出身者が日本に長期滞在することに伴って、子どもの教育問題や自分自身の永住、

帰化などの相談が多くなる傾向があるようです。

日本のグローバル化が進むにつれ、大都市だけでなく、どの地方都市でも外国出身者が地域住民の一員として生活している状況が当たり前になってきました。違う国で生まれ育った人にとって、言葉や文化、習慣など様々な問題や悩みごとが出てくるのも自然なことです。国際村では、皆さんの悩み事の解消のお役に立てるよう、また外国出身者と地元住民双方にとって住みやすい街を作るため、相談窓口の開設などの支援事業を行っています。皆さん自身、または友達、知り合いなどで、何かわからないことや困っていることありましたら、どんなに小さいことでも一人で悩まないで、まずはご相談ください。国際村へ来館いただいている相談のほか、電話かメールでの相談、場合によっては自宅などへの訪問相談も可能です。通訳が必要な場合は、通訳者が依頼者と一緒に学校、病院、市役所などの現場に行き対応しています。皆様のご利用をお待ちしております。

国際村の事業は ボランティアの皆さんに支えられています

国際村では、多くのボランティアの方に支えられ、様々な事業を実施しています。活動を通して、相互の理解や交流を深めます。

平成26年度も、様々な事業を予定しています。
国際村でみなさんと一緒に活動してみませんか？

イベント ボランティア 年数回

様々なイベントの際、運営補助のボランティアとしてお手伝いいただきます。

ホストファミリー ボランティア 年数回

外国からの滞在者を、家族の一員としてご家庭で受入れていただきます。外国語ができなくても問題ありません。

コミュニティ通訳ボランティア 必要に応じて

主に生活上必要とされる通訳や翻訳のお手伝いをしていただくボランティアです。今は7言語、66人の方に登録していただき、健康診断の通訳や、学校からのお便りの通訳など、様々な場面で活躍いただいています。定期の通訳勉強会も行っています。（本紙 P.7）

日本語指導ボランティア 通年活動

年間を通して、日本語を母語としない方のために、日本語教室を開いています。指導ボランティアは外国語ができなくても問題ありません。指導方法などの研修も行っています。（本紙 P.3）

様々な文化や人々に出会うチャンスです！
興味のある方は、ぜひ国際村にお問い合わせください。



あ と が き

新年を迎え、早いものもう3月です。2月にロシアのソチで開催された冬季オリンピックも閉幕となりました。テレビに写る日本選手や自国の選手の活躍に声援を送っていたものと思います。

さて、鶴岡市の外国人登録者数はリーマンショック以降減少傾向にありましたが、昨年12月末現在620人で、前年の609人から微増に転じております。

3月でアマゾン民族館の閉館はありますが、国際村は今後もこの地域の国際交流、国際理解、在住外国人の方々の相談・支援の拠点として重要な施設でありますので、お気軽にお立ち寄りいただければと思います。

また、今年は国際村開設20年にあたり記念事業も予定しておりますので地域の皆様、国際交流団体・ボランティアの皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

賛助会員ご入会のお願い

国際村では、賛助会員制度を設けております。会員特典は、会報の送付、主催事業のご案内、事業参加費の割引、会報で団体名のご紹介（法人会員様のみ）です。

《年会費》一般／3,000円、高校、大学生／2,000円、小、中学生／1,000円、法人／1口 10,000円

《期 間》平成27年3月31日まで

平成25年度

賛助会員に入会された皆様に御礼申し上げます。

個人：大人245名 小、中学生2名

法人会員（入会順・敬称略）：北星印刷(株)、山形サンダー(株)、鶴岡ライオンズクラブ、鶴岡信用金庫、(株)鶴岡電子計算センター、(有)阿部園芸、国際ソロプチミスト鶴岡、庄内国際交流協会、(公財)山形県国際交流協会